幸せになる方法

W校　高等部二年
阿部　純子

先日、私は知り合いにある映画を勧められた。それは二〇〇八年にアメリカで製作された、「イエスマン『YESは人生のパスワード』」というものだった。その映画は、三年前に離婚して以来、自分を世界から閉ざしてしまった主人公が、ある人物との出会いにより人生が百八十度変わるという話だ。彼はその人物に押され、今後は何があっても全て「イエス」と答えると誓いを立ててしまう。それからというもの、次第に物事が好転し始め、遂に新しい恋のチャンスまでやってくるのだった。

私はこの映画を見て、以前教わった三つのチャチャチャを思い出した。チャンス、チャレンジ、チェンジのことだ。チャンスが訪れた時に、しっかりとそれを掴み取ることが最も大切だ。イエスマンのように毎回「ノー」と答えてしまうと、訪れる機会を全て逃して

しまう。チャンスを掴めないとチャレンジもできない上、何も変わらない。私自身、今までで何度も痛感した事で、何度も後悔をした。よく耳にする台詞だが、「やらないで後悔するよりも、やって後悔する方がいい。」この映画ではこの言葉が見事に反映されていた。全ての機会に対してノーと言ってしまうといつまでもその人の人生は変わらないのだ。自分が悪い判断だと思っても、リスクが大きくても、心配や不安があっても、勇気を出してイエスと言わなければ良い事は起こらない。様々な事にイエスと答え、良くも悪くも色々な経験を積み重ねる事により、人として成長をすることができ、幸運も訪れるものだと私は信じている。

私はこの夏、二週間のお泊まりチャレンジキャンプのカウンセラーとしてボランティアをした。好きで毎年のように行っているキャンプなのだが、そこは私にとってかけがえのない場所なのだ。なぜなら、そのキャンプは

色々な人との出会いやチャンスで溢れているからだ。自分の意思で人はどこまでも成長できると教えてくれたのだ。普段ではあまり人前に立って大きな声で話す機会など無いし、八歳の子供達の面倒を一日二十四時間見続ける事も滅多にない。しかし、キャンプでは、子供達の前で、マイクなどの機材を一切使わず、大きな声でアナウンスやスピーチなどを行う機会が沢山あった。それにより、自分にもっと自信がつき、達成感も味わえた。新しい事に挑戦し、それができるようになったからこそ、人として成長できたのだと感じる。今後、絶対に役立つであろうリーダーシップスキルを学べた事をとても誇りに思っている。もしキャンプに出会えていなければ。もし、カウンセラーとして応募をしなかったら。私は一つ、人生で大切なものを逃してしまっていただろう。

もしあなたにチャンスが訪れたら、まずは「イエス」と言い、そのチャレンジを受けて

みよう。失敗しても成功しても、絶対にそこから得られるものがあるはずだ。そして変わろう。こうしているうちにイエスマンのように段々と幸せになれると信じている。これからは「ノー」と言わずに、「イエス」と言ってみると自分の中で何かが大きく変わるかもしれない。やってみる価値はあるはずだ。

多様性を体感するキャンプ

W校　高等部一年二組
柴田　紗良

今からキャンパー達が船で到着するというのに、私はせわしなくうろうろしていた。緊張、不安、初めてリーダーとしてキャンプに参加する人はそのような気持ちだろう。私も同じ気持ちだった、キャンパー達と会うまでは。船から降りてくるキャンパー達をみて私は恐怖の気持ちでいっぱいになった。

今年私はリーダートレーニング、LITとしてワンキャンプという神戸ＹＭＣＡ主宰のキャンプに参加した。福岡、福島ＹＭＣＡや台湾、北京からのキャンパーも合流した総勢約百五十人の大きなキャンプだ。

ワンキャンプの特徴は、誰でも参加できるというところだ。障害者、施設に入っている人、大人、子供、誰もが来て良い自由なキャンプだ。事情があり偽名で来ている子、ダウン症の子、障害がある持つ大人、その人達の

母親全員が同じキャンパーとして接し合って過ごした四泊五日だった。

私は最初にキャンパーを迎えた時、私よりはるかに大きい人や、障害のある人、日本語を喋れない人にどう接すればいいのか分からなかった。私が怖がっているここに敏感な人達にはすぐ伝わってしまうので、自分の感情を押さえて、自分が一番怖がっていた大人の障害者の人に話しかけるよう積極的に頑張った。けれど、そううまくはいかなく、ビクビクしてしまう自分が悔しくかった。

しかし、日がたつにつれて、私は自分が何を怖がっていたのか分からなくなっていた。そして私はやっと気づくことができた。私自身や、私の周りにいる人障害のある人は同じ人間であり、怖がらないで他の人と同じ接し方をすればよいことを。このキャンプに行く前までは、親や大人、たくさんの人にそう言い聞かされているだけで、自分では分かっているつもりでいた。けれど、これは自分で体

験して実感しないと分からないということを知ることができた。障害がある人を問題がある人という枠に入れずに、同じ人間として接するということを私だけではなく何人かのキャンパー達も分かっている様子だった。そのキャンパーの子達は、キャンプのアクティビィティーの時、障害がある人達と戸惑いもせずに一緒に遊んでいた。私の身の回りにいる人、SNSやテレビなどで、言葉だけで障害がある人への差別を良くないと言っている人よりも、キャンパーもの方が本当に理解しているのだろうなと思った。

私は、このキャンプにまだ一回しか参加していないので、キャンプのディレクターが伝えたいメッセージを全部理解することができなったかもしれない。だが、毎年このキャンプに通えば、また新たなことを学ぶことができると思う。楽しむだけのキャンプではなく、参加しているキャンパー達からも色々学ぶことができた。これからの自分の生活にも生か

すことができる大切な経験だった。

バイカルチュアルであること

W校　高等部一年一組
松下　愛理

「日本という国は心の底から素晴らしい。」

久しぶりの一時帰国後、何回これを口にしただろうか。十二年間アメリカに住み、さらに三年ぶりであっただけに、改めて日本人としてのありがたみを感じた。

日本はまず、とにかく清潔だ。空港に着いて、私の目が点になるほどのインパクトがあったのがお手洗い。アメリカのお手洗いの不潔さとは雲泥の差で、私は言葉が出なかった。十四時間の移動だけでこんなにも差があるとは、かなり驚きの事実だ。お手洗いだけでなく、全体的に日本はとっても綺麗。それは日本に暮らす人々の清潔さのおかげである。日本の文化の大切な一つである、土足では家に上がらないということも、この日本人の綺麗好きから生まれる。ニューヨークに長く住んでいてよくわかるのは、「アメリカ人は気にし

ない」ということ。土足で家に上がること、つまり、外の菌をそのまま室内に持ち込むということが、彼らの心には引っかからないのだ。日本人としての私には理解不可能な考え方であるが、アメリカ人にとって、これは全く不自然ではないのだ。

綺麗なだけでなく、日本は驚くほど便利な国である。いつ一時帰国してもいつも新製品が販売されているし、便利品がいたるところにあふれている。キッチングッズ、お掃除グッズ、豊富なレトルト食品、母は日本に行くたびにいつも感激している。さらにアメリカでは、車がないと生活がかなり厳しくなるものだ。なぜなら、どこもかしこも車でいくような距離だから。私の実家のある大阪では、徒歩５分以内の場所に駅や薬局、スーパーやコンビニなどがあった。アメリカではとてもじゃないけれど有り得ない。私の場合、薬局はたまたま近くにあるものの、駅は車で５分以上、スーパーは１０分以上かかる。しかも、

残念ながら、アメリカには私が大好きな日本の素晴らしいコンビニが存在しない。コンビニの便利さは経験してみないとわからないものだ。

私が思うアメリカ人と日本人との決定的な違いは、人々の丁寧さとおもてなしの心である。日本で何かを購入するとき、一番に気づいたことは商品の包装の仕方である。アメリカで適当にチャチャっと袋に入れて購入品を渡されるのに比べて、日本では丁寧に包装し、二重、三重の袋に入れて両手で渡された。買い物の時だけでなく外食のときも、お店に入れば「いらっしゃいませ。」とおもてなしされ、帰る時にも「ありがとうございました。」とお辞儀をしながらお見送りされる。アメリカでこれほどのおもてなしは中々経験できないはずだ。

しかし、今まで日本をベタ褒めしてきたが、一つ日本には大きな弱点がある。

このことはすぐには気づかなかった。来日

後少し時間の経った電車の中で気づいたことである。外国の人から「有楽町にはいつとまりますか？」と綺麗な日本語で質問された日本人が「無理無理。英語無理」と、その人の言っていることを全く理解しようとせずに断っていたのを見た。そこでわかったことは日本人は無意識に人種差別的になっているということ。日本は島国で他国の文化が入りにくい地理的な要因はあるが、人々が外国人、外国語に対して消極的で、異文化が入り込みにくい雰囲気を出してしまっているように感じた。そのせいか例え日本語が喋れる外国人に道を尋ねられても、避けてしまったり、断ってしまったりすることが多いのではないか。

アメリカで生活をしていて感じることは、この国では文化の多様性がすごいということ。アメリカは本当にたくさんの人や文化を受け入れている国で、もちろん人種差別的な人もいるが、日本にある見えない日本人と外国人との間のバリアはない。日本の学校で英

語以外の外国語を学ぶことは少ないだろう。それに比べ私の学校ではスペイン語を始め、フランス語、中国語、ラテン語など、様々な言語を学ぶことができる。これはアメリカがインターナショナルなカルチャーを大きな心で受け入れていることからである。

アメリカ在住の日本人として、母国の日本は私の誇りの場所。何もかも素晴らしく、アメリカとは比べ物にならないくらいのレベルだ。もうすでに魅力で溢れている日本だが、今後さらに輝いていく為には、世界中の豊かな文化を大きな心で受け入れることが何よりも大切なのではないか。

人とアート

LI校　中等部三年一組
市川　華

私は去年の九月から美術高校へ行っています。ラガーディア高校に入って私は二年前の自分と全く違う人になりました。

この学校に行ってる間最初に発見したことは、アートはそれぞれ人によって違うことです。同じ人や物を描いても三十五人の中で同じ絵を描いた人はいません。一人一人は自分のスタイルがあります。他の人のアートを見て触発されることもあります。アートは人間みたいです。人間はみんな違ってそれぞれの人柄があります。同じ人種、性別、宗教でも同じ考え、思いと気持ちがある二人とはいません。

もう一つ習ったことは、何でもアートであることです。人間の目で見えなくても、耳で聞こえなくても、手でさわれなくても作家が「これは私のアートだ。」

と言えば、その作品はアートです。よく美術館へ行くと
「どうしてこんなのが美術館に飾ってあるのだ。こんなのアートなのか。」
という声が聞こえてきます。
白い後ろに緑の細い線一つ真中に引いてある絵などの女の人が座っている絵が有名になって何マンドルもする時があります。そのアートのことをそう思う人は本当の美術は何か知りません。アートは何にでもなれて、何でもアートになれます。あの緑の線はもしかして未来のドアの隙間だったかもしれません。あの座ってる女の人はだれかを殺したのかもしれません。作家が頭の中で想像した作品と人が見ている作品は実際同じでも見方がちがいます。作家が頭の中で想像してる思いは他の人の思いと違うかもしれません。三つ目のことは、アートは人間の心を治す力があると思います。何かの悩みや苦しみがあっても絵を描いたり布を縫ったり粘土をさわったりす

ると不安がなくなり心が落ち着きます。アートは作家の気持ちを見せている時もあります。

私の陶芸の先生は私のクラスにいつも「この粘土が目を旅におくるような作品を作るんだよ。」といいます。3Dの粘土で作ってある物でも何かを表しています。目だけじゃなく手でも作品をさわれることも考えながら作ります。

アートセラピーもよく世界中に使われてます。アートは自由で面白い物だからどんな年代でも楽しめることです。

アートも人間みたいに生きています。

私たちの地球

LI校　中等部二年一組
畑崎　優里

「私は今、この壇上にいるべきではありません。私は海の向こうで学校に行っているべきです。それなのに、あなたたちは私に希望を求めてここにきたのですか？よくそんなことができますね！」

と感動的なスピーチを送ったグレタ・トゥーンベリ。彼女はスェーデンの環境活動家です。九月二十三日に、ニューヨークで開かれた国連気候行動サミットで涙を浮かびながら訴えました。九月二十日に、ニューヨークで行われたグローバル気候マーチでは、リーダーとして六万人の学生にメッセージを挙げました。私もその六万人学生の一人でした。初めてのプロテストであまり深く地球のことについて考えでいませんでしたが、グレタさんの立ち向かう姿を見てどれだけ温暖化は身近に迫っているか気づきました。

グレタさんのスピーチで感動し、色々調べてみると、自然破壊が進んで影響が出ている国がたくさんあることが分かりました。

例えば、今でも燃え続いているアマゾン。これは自然に起った森林火災ではなく、農業の願望を全うするために燃やし始めた人災なのです。続いてインドネシアにあるスマトラ島の急激な熱帯林の減少。今スマトラは世界の製紙パーム油産業の一大拠点となり、紙の原料となるアカシアやユーカリを植える植林地やパーム油を生産するためのプランテーションの開発が進められています。

地球を元の状態に取り戻す時間は今しかありません。世界中の人々が対応するまで十八ヶ月。温暖化を止める方法を考えなければ地球は少しずつ滅び始めます。地球温暖化は今の大人には影響を与えないかもしれませんが、私たちの世代やその後の世代に影響が及んできます。

政治家や会社経営の上層部の人たちはお金

儲けのことしか考えていないため、私たちは今危険な状況に向かっています。地球が滅びてしまったらお金は何の意味を持たないわけです。なによりも優先しなければならないことは地球温暖化をどうやって止めるかです。

地球の八億人の一つ一つの小さな努力で温暖化に歯止めかけることができるかもしれません。私達若い世代は、これから先もずっと宇宙から青く美しい地球が見られることを願っています。

見える！見える！！見える！！！

W校　中等部二年一組

ウォーカー　美咲

私は小学一年生の頃から八年間メガネをかけている。年々私の目はすごい速さで悪くなっていき、ほとんど何も見えず、色の分け目も分からなくなっていた。かけないことには、朝ベッドから起きられない。レンズの厚さは学年で一番になり、周りから勉強好き、読書好きと勝手に決めつけられた。携帯やコンピューターを使っている時はとても目が疲れたし、髪を切る時は外しているので、最後までどうなっているのか見られない。

スポーツをしている時は、顔にボールが当たると、けがの心配よりもメガネが壊れていないか、先にそちらを心配した。実際、吹っ飛んだり、パッドが取れたメタルの部分が鼻の付け根に当たって傷がつく事も多かった。私の中では、仮面の自分と本当の自分、まるで二つの顔があるみたいでいつも気になって

いた。友達が知っている私の顔はメガネごしなので、外してみてと言われると恥ずかしかった。落とした時、かけていない顔を見られないように拾ってつけたりしていた。

六年生の時、友達の何人かがコンタクトになり、うらやましく思った私は母に、

「コンタクトに変えたい。」

と、何回もお願いした。

「部屋の整理整頓もできないのに、まだ早いでしょ。」

と、答えはいつも同じだった。それから二年が過ぎ八年生の終わり、十四歳になる誕生日にコンタクトに変えようと両親が言ってくれた。すごく嬉しくて楽しみにしていると、母が普通のコンタクトレンズの他に、「AOK」（オルソケラトロジー）というものがあることを教えてくれた。

これは手術をせずに視力矯正する方法。夜寝る前に専用のコンタクトレンズを目につけて、眠っている間に角膜の形状を矯正して、

日中を裸眼で過ごせるらしい。それを知った時は待ちきれず、でも少し怖かった。母の勧めで先生に会って説明を聞くと、オルソはコンタクトでは出来ないことが可能になるという。七から十時間寝れば、二十四時間裸眼で過ごせて、今より視力が落ちることがない。プールに目を開けたまま飛び込めるし、いつ居眠りをしてもいい。運動中に何も気にすることもないし、ドライアイにもならない。

私は九月から高校が始まり、今までと生活が変わる。家から車で十分程の小中学校と違って、毎朝五時半に起きて六時半の電車に乗って高校へ通わなくてはならない。部活も始まるし、これからの高校生活を考えると、オルソの方がぴったりな気がする。私はコンタクトとオルソのどちらかを選ばなければならず、オルソに決めた。

つけ始めてから変化を実感するのに一週間程かかると言われて、五日目の朝。レンズを外すと、

「うわぁー、見える！見えるっ！」
びっくりした。見える世界が一気に変わった。こんなことがあるなんて信じられなかった。最初は言葉が出ないほどびっくりして、母を呼び、どこまで見えるようになったかを話した。二人とも嬉しくて、
「魔法みたい！」
と喜んだ。今考えると、メガネのない生活をしたことがなかった。いらない生活なんてできると思わなかった。医学の進歩は本当にすごい。
それからは、教室の後ろに座っていても、小さな文字まではっきり見えるようになり、視野が広がって、周りの物が色鮮やかになった。顔に感じていた重みがなくなって、軽くなった。下を向いた時にずれるのをいちいち直さなくてすみ、鼻にあとがつかなくなった。壊さないように、落とさないように、無意識に気を付けていたのがなくなって、気持ちが楽になった。

一ヶ月半たった今も、かけていた時のくせがまだ残っている。つい目の周りを触ったり、眉毛の間を押したりしてしまう。今までの普通の動作が、もう必要なかったと一人で笑う。一つだけ、かけている時に気に入っていたことがある。それは、雨の日に空を見上げても、水が目に入らないこと。レンズに当たる雨を下から見るのは楽しい。でも今はそれ以上に、目だけを上下左右に動かした時、視界をじゃまするものがないのは、本当に気持ちいい。

私は今まで「限られたフレームの中」に住んでいた。でも世界はメガネの幅だけじゃない。ずっとそこにあったのに見えなかったものが、今は見える。字や物だけじゃなくて、気付かなかったものが見える。私にしか見えない「楽しい」をこれからたくさん探していこうと思う。

歌舞伎との体験

W校　中等部二年二組
渡邉　慧

「いよぉ～～！」という声が、劇場の中を鳴り響く。ステージの中央に目を向けると、そこには三人の人物が立っている。一人一人綺麗な模様の衣裳を着ていて、少々派手な髪型をしている。顔は真っ白く、赤い模様が顔を埋める。後ろでは、太鼓や笛、三味線を弾く人達が、美しい音色を作り上げている。これは歌舞伎です。

歌舞伎はおよそ四百年前に作り上げられた、日本独特の伝統文化です。役者は美しい衣裳を着て演出します。役者さんの顔についている模様は、「隈どり」という化粧方法です。「隈どり」は、役者が描く人物の性格や人格を分かりやすくするためのものです。色々な「隈どり」で、様々な表情や性格を描くことができるのです。

例えば、三大歌舞伎の一つである「菅原伝授手習鑑」に出てくる悪役、左大臣の菅原時平には「公家悪（くげあく）」という隈どりが使われています。真っ白い顔に藍色の筋が描かれています。冷酷さと不気味さを表す隈どりで、昔から身分の高い悪役に使われていました。対して、菅原時平の敵であった舎人梅王丸は、「筋隈」という隈どりをつけています。「公家悪」と違い、真っ白い顔には、藍ではなく、赤い筋が描かれています。「筋隈」は江戸で発達した江戸歌舞伎の表現方法の特徴である「荒事」の代表的な隈どりです。「荒事」は、悪人を懲らしめ、弱い人々を助けるヒーローが活躍する話です。「筋隈」は正義感のある、活発でアグレッシブな人物に使われていました。このように、隈どりだけで、人物の立場や性格を分かることができるのです。

隈どり以外に、歌舞伎にとても重要な要素はあります。一つは、見得です。見得は、役者がするポーズのことで、人物の感情や思い

を表すために使われます。他にもポーズや場面の迫力を上げるために使われています。例えば、通り過ぎる牛車を止めたい人物がいます。彼は、手を体の前に置き、もう一つの手を頭の後ろへ置きます。足を広げ、大きい声で、

「ちょっとまったぁ！」

と叫びます。声だけではなくポーズと一緒にやることで、迫力が上がりました。これで牛車もきっと止まってくれるでしょう。このように、見得も歌舞伎の重要な要素の一つです。

もう一つは、ツケという楽器です。ツケは、二枚の木の板をぶつけ合う楽器です。舞台の端で使う楽器で、「バタバタ」という音を出します。この楽器を使うことによって、見得の瞬間を強調したり、足音や物が落ちたときの音を際立たせたりすることができます。このように、隈どり以外にも、歌舞伎味重要な要素はたくさんあります。

昔の歌舞伎は荒唐無稽で、でたらめな話、現

実味のない話が多かったのです。その後、歌舞伎の内容は段々世話ものや時代ものへと変わりました。

歌舞伎についてとても興味深いことがありました。それは四百年も前に作られたはずの歌舞伎話が、一言一句違わず今まだ代々伝えられてきたことです。今の現代社会では、昔のエンターテイメントや文化は現代の人々の好みにするために、話の内容を変えられたり、話が調整されたりしてきました。しかし、歌舞伎は、一言も変わってはいません。それなのに、今でも人々に愛されています。それくらい、歌舞伎は素晴らしく、魅力的なのだと感心しました。

僕は今年の夏、双子と祖父母で歌舞伎を観にいきました。「歌舞伎鑑賞教室」というイベントに参加しました。「歌舞伎鑑賞教室」は歌舞伎と触れ合う機会を作ってくれるイベントです。そこでは、「菅原伝授手習鑑」のある場面「車引」と、「棒しばり」という歌舞伎を見

ることができました。「車引き」は歌舞伎の特徴を良く捉えた場面で、「棒しばり」はユーモラスな作品で、大人も子供、誰もが楽しめる歌舞伎だと思いました。

歌舞伎はユネスコにより、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」と記載され、「世界の宝」でもあります。こんな素晴らしいものを私は見学することができて、とても嬉しかったです。アメリカにも日本にも、まだ歌舞伎の魅力を知らない人はたくさんいます。僕は、そんなみんなに歌舞伎の素晴らしさを伝えていきたいです。

平等に学ぶとは

W校　中等部二年二組
シュワルツ 吾知

幼稚園の頃から、私は夏休みに日本の学校で体験入学をして来ました。中学二年生になった今年、親しい友達と話したことから、私が日本の教育方法について疑問に思ったことを書きたいと思います。

十年間の体験入学を通して私が感じている事は、日本の教育は、みんなが一緒に同じレベルで学んでいく事を目標にしているように感じます。これは理解するのに時間がかかる人にとっては良い事だし、事実この方法で日本人の識字率は高くなったそうです。けれど別の視点から見ると、この方法は本当に良いのでしょうか。

この夏、私は一人の友達と学校のことについていろいろと話をする機会がありました。この友達は、幼稚園の頃から英語に興味があり、将来は英語がとても好きになるんだろう

と思っていました。けれど、今は英語に興味を無くしてしまったと言います。それは、学校の英語の授業内容が自分のレベルに合わず、英語の能力が上達していく達成感を感じられなくて、やる気がなくなってしまったと言うのです。塾に行けばいいと思うかもしれませんが、塾の授業料を払う余裕はないし、テストの点を取るための受験用の英語を習いたいわけではないと言います。

私が体験入学で授業を受けている時、英語の授業だけでなく他の授業でも「つまらないから」と言って寝ている人達を何人か見ました。この人達の多くが授業についていけないのではなく、簡単だからつまらないと言っていました。

私が、アメリカで学んでいると、それぞれの進み具合に合わせて、選択肢が与えられていると感じます。例えば、数学や第二言語では、進むのが遅い人、普通の人、早い人、と進み具合によって分けられます。このような進み

方だと、生徒一人一人が自分の能力に合った学び方ができ、達成考を得られると思うのです。

私が考える「勉強の楽しさ」とは、自分が知らなかったことを知り、その知ったことを実際に使って、自分ができなかったことができるようになっていくことです。このことができた時に、私は勉強したことの達成感を味わい、さらに勉強したくなると思うのです。

日本で行われている授業は、全ての人に平等に学ぶ機会を与えています。この平等とは「同じことを教える」というように感じられます。けれども、平等に学ぶ機会を与えるというのは、生徒それぞれの能力、個性に合った内容を教えていなければ、本当の意味で「全ての人に平等に学ぶ機会を与えている」とは言えないのではないでしょうか？

幼稚園の時、あれだけ嬉しそうに英語の言葉を話してくれていた友達が、もう一度、英語を熱心に学びたくなるように、私は日本の

教育方法が、全ての子供に「教育の機会を平等に与えることとは」について、もう一度考え直してくれることを希望しています。

スマホの世界

LI校　中等部一年一組
北川　茂那

二十世紀のなり、私達が携帯を持ち始め、もう三十三年が経ちます。十九世紀のように、手紙やポストカードを書く機会が少なくなり、テキストや電話などで通信することが多くなりました。私も、家族と連絡を取るにはスマホを使っています。スマホはとても便利ですが、マイナスの面も忘れてはいけないと考えています。

私達葉スマホでいろいろなことが出来るようになりました。支払い、コンサートチケット、航空券などをスマホで読み取れます。カバンの中にいろいろな物を持たなくても、スマホ一つですべてが済めます。遠くに住んでいる友達や家族とも近くにいるようにはなせたりします。とても便利です。私はインタネットやスマホがないと宿題が出来ません。補習校でも、先生からのメールや、中高の生

徒会の事もメールで出来ます。現地校でもウェブサイトやアプリで宿題やらないといけません。先生からの復習や今日の宿題、全てネットを使わなければ終わりません。SNSでは、時々知らない人の面白い動画を見られます。それが友達との話題でもあります。辞書で調べたり、図書館に行ったりするよりも、コンピューターやスマホで探せば直ぐ答えが見つかります。今、話題のノーベル化学賞を取った吉野さんがリチウムイオン電池を開発してから、携帯が小さく、軽く、とても便利になり、今まで考えられない形で仕事が出来ます。仕事に行かなくても、携帯一つで、お金を稼ぐ事が出来る様になりました。

私はマイナスの面も強調したいと思います。個人情報を盗み取り、それを悪用とする人もいます。顔が見えない分、直接言えないことを平気で、「死ね。」「うざい。」「気持ち悪い。」などとコメントする事が出来るでしょう。書いた本人は、直接言うのではないので、

悪い事をしていないような気になるのだと思います。それがどんどんエスカレートして、言われる方が耐えられなくなり、自殺をする人もいます。SNSにより、人と人の直接の関わりが少なくなっているので、人に対する礼儀が失われてきていて、他の人の感情が理解出来なくなっていると思います。スマホがどうやって自分の行動に影響するのかを考えないと行けないと思います。SNSの使う上で、人としての思いやりを忘れて使ってはいけないと感じています。

自分の外見ばかりにとらわれて、体の悪いダイエットをする人もいます。毎日何も食べず、体型や体重を気にしすぎて、摂食障害になったりする人もいます。私の友達は、他の人が彼女をどう見ているかを気にしすぎて、ダイエットをしたり、化粧をしたりし始めました。その友達は、本当の自分となりたい自分とのギャップで、鬱病を発症して自傷行為までするようになってしていました。写真を

取った後は必ず、自分の顔をもっとやせるフィルムを使ったり、体をスリムに見せたりします。自分の本当の体や顔に自信が持てない人が何人もいます。これも私達は情報が多すぎる時代に生きていて、自分で制限をしないと、自分を見失う事になるかもしれません。簡単に自分の外見をSNSのモデルやアイドル達と比べたりできますが、モデルト比べる必要はないと思います。

スマホの利用によって、入って来る情報を信じていいのものか、信じない方が良いのかは、自分で判断しないといけないと思います。私は自分の考えを持ち、情報に影響されない強い意志を持ち続けたいと思います。

グレタ・トゥーンベリのスピーチを見て

LI校　中等部一年一組

イスラス　華

この間、国連本部で開かれた気候行動サミットで、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんは、感動的なスピーチをしました。グレタさんは十六歳の子供なのに人の心を動かし、世界のリーダーが集まる国連で、地球温暖化の対策を求めて力強く大人たちを怒りました。

グレタ・トゥーンベリさんは、自分が心から感じていることや、刺激を受けていることを思ったまま表現し、人に影響を与えることのできる人だと思います。彼女は素晴らしい世界的な環境活動家で、彼女のスピーチを聞くと、その言葉に驚かされないことはないでしょう。

グレタさんのスピーチで一番印象に残ったのは、「あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢や子供時代を奪いました。それでも私は恵ま

れている方です。多くの人たちが苦しんでいます。多くの人たちが死んでいます。全ての生態系が壊れだしています。私たちは絶滅の始まりにいます。それなのにあなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。よくそんなことが言えるものですね！」

という所です。

私はグレタさんから、一人の女の子が世界の多くの人の心を変えることができることを学びました。グレタさんは多くの子供たちや若者にインスピレーションを与え、環境や未来を変える方法について真剣に考えさせました。たくさんの子供が学校を休んで抗議デモに参加しました。若者には未来を変えるチャンスがあると思うので、地球の気温が上がらないよう、手遅れになる前に行動すべきだと思います。このチャンスを利用しなければ、私たちの世界と明るい未来は壊されるでしょう。

グレタさんのような人が世界にいることを私はとてもうれしく思います。彼女のような人がいなければ、若者の未来はありません。大人たちが地球温暖化に真剣に取り組まないのなら、私たち若者が明るい未来を手に入れるために、一歩踏み出して生き残るチャンスをつかむ必要があります。

私が非常にがっかりしていることは、アメリカの大統領がグレタさんの言葉を気にかけず、ただそれを払いのけてしまったことです。思いやりのある大統領である代わりに、彼はグレタさんをあざ笑っただけで、「グレタさんは明るく素晴らしい未来を楽しみにしている非常に幸せな若い女の子である」とツイッターに載せました。

グレタさんのスピーチは、特に彼のような人々への目覚めの呼びかけであると思いました。私は大統領に失望しているだけでなく、彼に腹を立てています。子どもや若者が自分達の将来について抗議デモに参加しているの

は、彼のような大人がいるからです。

結論として、グレタさんは並外れた人だと思います。私は彼女が考えていることに同意し、彼女の言葉が、世界と若い人たちの未来を変えることができることを願っています。

壁の先にある可能性

W校　中等部一年一組
井手　俊

一九四六年に最初のコンピュータが作られた。それ以来、恐ろしいほどのスピードで進化している。一九六九年に月に行ったアポロ11号の中に入っていたアポロ・ガイダンスコンピュータ（ＡＧＣ）とアイフォンのほうがＡＧＣよりも一万倍メモリーがある。五十年は国家が全力で作っていたようなコンピュータより何万倍も高性能なものが、今ではほとんどの家庭にある。昔は一つの部屋をいっぱいにするくらいのサイズだったコンピュータが、今ではひざにおけるぐらいのサイズになっている。パソコンは新しいものほど性能がよい。これが常識だ。

僕は最近、パソコンのゲームの技について調べていて、その常識の例外があることを知った。キーボードだ。今から四十年近く前に作られたＩＢＭモデルＭというキーボード

は、今でも愛されている。耐久力が高く、質のいいプラスチックで作られている。バックリング・スプリングという構造でキースイッチが作られているので、「カチン」という音が鳴り、この理由で買っている人もいる。ところが、最近のキーボードは性能がよくなるばかりか、逆の方向に行っている。ほとんどのノートパソコンキーボードは、機械式のバネではなく、ゴムのカップのようなもので作られており、音は静かだが、手触りが「グニョ」とした感じであまりよくない。高速のタイピングにも向かない。これでは、進化しているよりも退化していると言える。

キーボードのような、人間の微妙な感覚に関係するものを作るのは簡単ではない。アントニオ・ストラディバリは、十七世紀のイタリアのルシアー弦楽器製作者だ。彼の作った楽器は音の良さで知られている。最近の研究では、バイオリンを作るために使われた特殊な木がその理由だと言われているが、その美

しい音はまだ再現できていない。値段も普通の物より何倍も高く、「レディ・ブラント」と名付けられたバイオリンは約十六億円もするらしい。三百年前の物が現在の楽器よりも音質が良い。

なぜこういうことになるのだろう。普通は科学技術が進むとともに、ものの性能も上がる。しかし、「性能」と人間の「感覚」は違う。コンピュータの計算の速さは、コントロール可能で、いくらでも計ることができる。これが「性能」というものだ。だが、バイオリンやキーボードの手触りや音の美しさは、人間が感じるものだ。人間が直接手にし耳にする部分は、コンピュータの性能のように進化がしにくい。というより、してはいけない。人間は時代とともに別の生き物になったわけではないからだ。

キーボード、バイオリンといったものは、主に人の感覚によって感想が違うので、何が「良い」か「悪い」かの、はっきりとした答

えは永遠に出てこないかもしれない。だが、何か新しい発明がされる時はいつもそういうものかもしれない。一見どうしようもなさそうな何かの障害がある。その壁を超えた先に、何か新しい技術的な可能性があると信じる。

鳥のように飛ぶ機械や、人間の代わりに計算をしてくれる機械は、最初は超えるのが不可能な壁のように思えただろう。だが、その思いを打ち破って、先に進もうと努力したエンジニアたちがたくさんいる。その動機は、いつも何か新しいことに挑戦しようとする心から生まれる。僕はそういう人を尊敬する。壁の先にある可能性を信じて、いつも新しいことに挑戦することは、素晴らしいと思う。

なぜ補習校は僕にとって大切なのか

W校　中等部一年一組
大東　龍ノ介

補習校に通い続けて二年間たった今、補習校は僕にとってとても重要なことだと分かった。

二年前、渡米してきたばかりの頃は、現地校に加え補習校の宿題がたくさんあり、両立が大変だった。僕は何で日本にいる友達は一つの学校にしか行っていないのに、僕だけ２つの学校に行って倍の宿題をやらないといけないのか、と悩んでいた。勉強が簡単な現地校だけに行って補習校なんてやめてしまいたいと思った時もあった。だが母に

「日本にいる友達は塾に行っているんじゃないかな。あなたも塾に変えたい？」

と聞かれた。友達に聞いたら塾の宿題は、もっと多くて難しいよと言っていたので、補習校で頑張ってやる！と決意した。それから二年間半毎週頑張ったことで補習校は僕にとっ

て欠かせない物になっていた。それには五つ理由がある。

まず、日本語を話す先生方とクラスメイトと一緒に授業が出来ることだ。日本語の授業は僕にとって英語の授業よりも分かりやすくて、落ち着いて学べる。現地校での授業で発言する時、もし難しい話題だったら、日本語でパッと思いついたことをもう一度英語に訳さないといけない。なので毎日現地校のクラスで僕はピリピリしている。

数学は現地校と補習校の二つの学校で習うことにより詳しく分かった。補習校で先に習い、次に現地校で習うこともあれば、その逆の時もある。どちらの学校にも予習であり、復習でもあり、とても良いことだと思う。二つの学校では違うやり方で教えてもらえる。例えば正の数・負の数の計算の時だ。始め補習校で習ったが計算の仕方がちんぷんかんぷんで全く分からなかった。数ヶ月後、現地校で同じ単元を習ったら「あー成る程。こんな

の簡単じゃん。」と納得できた。そのやり方はプラスが良い人で、マイナスが悪い人として、もし戦ったらどうなるか？と考える方法だ。マイナス三プラス二という問題だとしたら、マイナス三の悪い人のほうが多いいので記号はマイナスになることが分かる。次に絶対値の計算、三マイナス二を解き、答えはマイナス一になる。僕はこの解き方で問題をスラスラ解ける事が出来ようになり、テストでも良い点が取れた。濃くかかっていた霧がパッと晴れたようでとても嬉しかった。

次に勉強の中で大切だった物は漢字だ。毎週、五年生の時から 中学一年生の今まであった 漢字テストは、僕に多くの漢字を覚える機会を与えてくれた。毎週、約十個の新しい漢字をノートに書いて、自分でテストを繰り返し何度もやり、必死に勉強した。そのおかげで漢字テストは百点をほとんど取れ、漢字検定六級と五級に合格した。僕はテストや漢字検定で良い点が取れると、「頑張って練習した

甲斐があったな。次もまた良い点を取ってやる！」と思えたので、今まで僕は 漢字や他の教科の勉強も最後まで諦めずに学べた。今年の冬は漢検四級を受けるので満点を取りたい。

勉強の他で補習校が大切だと思えたのは球技大会だ。春、まだ学校が始まったばかりの頃、先輩たちの知らない顔がたくさんありこれから一緒にプレイできるのかな、と不安だった。だが先輩たちはとても友好的だった。特にリーダーの高校二年生のお兄さんは、優しくて格好良かった。初日の練習では皆がチームメイトの名前を覚えられるように、名前ゲームをしてくれたり、全員が練習をできるようにしてくれた。試合当日は皆にボールをパスするように努力してくれ、負け試合後は、

「大丈夫。次頑張ろう。」

と盛り上げてくれた。おかげで僕もすぐに馴染めて楽しくプレイでき、僕たちのチームはなんと一位に輝いた。このような体験を日本

人と出来ることは塾や家庭教師や自己勉強ではおそらく不可能で、補習校に限るだろう。来年僕は二年生になり一年生と一緒にプレーをするので、先輩達が僕にしてくれたように、優しく尊敬されるようなお兄さんさんになりたい。

最後に補習校が僕にとって大切な物の理由は日本人の友達と日本語で思いっきりしゃべることが出来る事だ。特にLI校に四週間行った時、バスに乗っている時間は心が弾んだ。中高等部は夏休みの間はW校の工事のためLI校に行って授業を受けると最初聞いた時は「えー」と思った。なぜなら折角の夏休みなのに、普段学校に行っている時間よりも長く行かないといけないからだ。だが、いざ行ってみたらバスの中では普段あまり話せない友達と話したり、違う校舎で授業を受けたり、LI校の生徒とも交流が出来たりしたので遠足のようでとても楽しかった。

僕にとって補習校がなくてはならない存在

なのは、日本語を楽しく勉強でき、日本人の同級生や先輩たちとたくさん交流出来るからだ。これからもずっと通い続けたい。